

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )  
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で意見、話し合いの中で独自に創り上げた理念である。職員は会議等の前に理念を述べ、入居者主体の支援の取り組みに繋げている。		個々のニーズに出来るだけ合わせながら実施している。散歩、雑巾縫い、買い物、動植物との触れ合い。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念実現出来る様、日頃より話し合いを持っている。管理者と職員は、入居者の日々の様子を日頃より話し合い、触れ合いながら共有している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	毎月、近況報告を手紙で知らせている。行事等への参加広告等を配布している。		地域の催し物への参加も入居者の希望を伺いながら、出来るだけ参加している。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買物等の外出時に、地域の方々と挨拶を交わしている。		広告等の配布はあるが、なかなか参加、立ち寄りはい少ない。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	坂井輪祭りに参加。小学生の訪問やボランティア活動の方、その地域のコンサート等にも積極的に参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホーム内で研修委員会が中心となり、勉強会を行っている。実習生受け入れも積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で評価を行っている。その中での気付きの実践や検討等をその都度行い、改善に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見内容等は、全ての職員にも開示され、周知している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム内勉強会に民生委員や介護相談員の方を招き入れ、サービス向上に努めている。ボランティアセンターを活用している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	理解しているとは言えない。		勉強会を開き、知識向上に努めていく必要がある。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士コミュニケーションをとることで、閉鎖的になることなく、虐待を防止されている。		勉強会を開き、知識向上に努めていく必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	職員は出来る範囲で対応し、その都度、管理者に報告、相談を行っている。かかりつけ医の変更等の連絡は管理者が行っている。	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	介護相談員から入居者の相談にのって頂いている。職員は入居者の言葉を傾聴し、出来る限りの支援を行っている。	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月、担当スタッフよりご家族に現況報告をしている。出納長、レシートコピーして郵送し、確認印を返送してもらっている。	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	運営推進会議や苦情受付箱を設置している。面会時にはコミュニケーションをとり、言いやすい雰囲気作りを行っている。	家族会は無く、家族同士の交流はない為、検討していきたい。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	カンファレンスを月1回行って、意見を聞くようにしている。又、会議録にて把握されている。	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	行事がある時は職員の調整を行っている。夜間緊急時は、管理者に連絡をとっている。	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	年1回職員の異動があるが、新しく入った職員の階は異動されていない。離職があった場合には、他階のお手伝いをすることで、顔馴染みになれる機会がある。	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	常に見やすい所に掲示してあるが、周知まで至っていない。現在のマニュアルを定期的に見直し、検討していきたい。	西蒲中央病院についてのマニュアル作成。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会、勉強会に参加している。研修報告書により、内容を共有できている。		職員からやりたい研修、聞きたいことを募集している。法人内研修を行っている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会、勉強会に参加することで、質の向上に努めている。		他グループホームへの見学。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	「残業しないように」と管理者から配慮の言葉がある。休憩室について話し合った。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者は職員個々の事情や勤務状況を把握している。職員としては、問題点があった時、職員同士で話し合い、意識を高めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	一人ひとり個々にじっくり話し合いを取り組んでいる。		今後も話を聴く機会をつくり、ご本人の思っていることを受け止めていく。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込み時やケアプラン作成時、家人から話を聞き、相談にのっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、又、ご本人の様子から必要としている支援を感じた際、出来る限りの事に対応している。入浴に関して、より良く入浴できるよう、西蒲中央病院の浴室利用が出来るようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族と相談し、時には協力をお願いする事で、ご本人が当ホームに馴染める事ができるように努めている。		入居前に何度か家族含めて遊びに来てもらったり、「泊まれる」というような機会を経て、入居へと繋げていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	得意分野で力を発揮してもらおう場作りに努めているが、十分に行えていない。ご本人の「できること」について把握に努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランの見直しや、月1回家族への手紙で、入居者の情報を共有している。入居者について協力を求める際、電話し、相談、お願いして共に支えあっている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月1回のご家族への手紙、ご本人へ面会時での対応で、より良い関係が築けるようにしている。行事の時、家人をお誘いしている。		ご家族への手紙を書く際、入居者本人にも書いてもらえるよう働きかけたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	正月や盆には帰省される方もいる。馴染みのある店、場所へ出かけている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個人、個人の間関係を把握し、入居者同士の関係が上手くいくように働きかけている。		その方の気分や感情などの変化を見逃さず、注意深く関係を取り持つ。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された方のもとへ、入居者と共に訪問している。		サービス利用を終了した方、家族との関係を大切にしていきたい。相談等に応じていきたい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり話を傾聴したり、接する事で、表情を読み取り、ご本人の希望、意向の把握に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から、コミュニケーションをとり、情報を聴いている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、行動や動作により感じ取り把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的に会議を設け、職員間で意見交換、カンファレンスを行っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況に応じて、介護計画を見直している。		職員同士の話し合いを設け、臨機応変に介護計画を変更していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日、その日の様子を記録し、情報を共有し、ケアのヒントに活かしている。</p>		<p>全ての職員が把握できるように、記録をしていきたい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>ご本人やご家族の状況に応じて、家族に代わって通院を支援している。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>毎週、毎月、ボランティアの方々来所。(民謡、踊り、マジックショーなど) 半年に1回、消防署立会いの下、避難訓練を行っている。</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>理美容サービスを利用してもらっている。地域の図書館にて本、ビデオ、CDを借りている。地域の主催する音楽会などのイベントに参加される。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>2ヶ月に1回、運営推進会議に地域包括支援センターの職員参加。周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。</p>		
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人、ご家族の意向で相談の結果、馴染みのかかりつけ医に通う入居者、事業所の協力医に受診を依頼する入居者と、選択できるよう支援している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者の認知度を往診時、内科医に伝え、それを考慮しながら診て貰えるよう努めている。		認知症について知識を高め、入居者がより良く生活出来るよう、チームケアに繋げる。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現場看護職はいないが、西蒲中央病院看護職との連携を行い、日々の健康管理を支援している。		医師の往診時、日頃の入居者の様子を伝えながら、今後もより良い信頼関係を築き、協働を心掛ける。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	1週間に2回程面会に行き、入院中の様子を聞いたり、ご本人への支援方法など情報を共有するよう努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、出来るだけ早い段階から家族へ相談し、次の機関への利用を話し合う。		月に1回、職員から家族へご本人の状況を手紙でお知らせし、情報を共有している。又、面会時、電話でお話出来る時も報告を行っている。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医との連携を図り、取り組んでいる。急変した場合、すぐに対応してもらえる医療機関がある。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人、ご家族、ケア関係者より情報を聴きだし、又、様子観察を行い、ケアプランを作成。出来るだけご本人の住み易い環境を作り出すよう努めている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりに合わせた声掛け、誘導を行っている。チェック表によりパターンを、職員は出来る限り把握しながら対応している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日に入浴してもらっている。男性対応無理なら女性対応、温め・熱め、シャンプー嫌いならドライシャンプーなど、希望に配慮している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	レクリエーション、体操、散歩、日光浴などの促しを行いながら、一人ひとりに合わせた生活のリズムが取れるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	縫い物、野菜切り、食器洗い、拭き掃除等、一人ひとりに合わせた、出来る仕事をお願いしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支払の際、お金の受け渡しが行えるよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、ご本人の気分や希望に応じて、散歩、散策、買い物に出かけている。 外食や、おやつを持って公園に出かけている。		日帰り旅行に行かれる様検討していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠出はしていないが、実現するため検討していけるよう努めている。		職員の勤務を調整できるよう検討している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族にご本人自ら電話を掛けている。事務所内に電話を置き、他入居者に聞こえないようにしている。		家族に手紙を出せるよう支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族が気軽に来易い雰囲気作りを心掛けている。居室にて気兼ねなくすごしてもらえよう気を配っている。		ご家族が来易い雰囲気作りを意識していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒、骨折の危険が伴う為、拘束を行っているが、拘束時間を記録し、本人の様子を見ながら離床を促している。		やむを得ない事情により拘束しているが、出来る限り、皆様と一緒に過ごしてもらえようように、支援している。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者が外出しそうな様子の時は、止めるのではなく、さり気なく声を掛け、一緒に出かけていく。安全面に配慮して、日中は玄関の鍵をかけずに自由に暮らしを支えている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者と同じ空間で、記録や事務作業を行いながら、全員の状況を把握するよう努めている。夜間はその都度、入居者の状況に合わせながら、又は2時間毎に入居者の様子を確認し、すぐに対応できる姿勢でいる。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状況に合わせ、注意しながら、針仕事や、刃物などを管理している。夜間は、包丁・ポット・洗剤物など、保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。万が一の事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し、今後の予防対策について検討している。		定期的な勉強会で意識付けをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルの整備はされているが、方法の体得、習得には不安がある。定期的には行っていない。		救急法等の研修会へ、少数でも多く参加し、ホーム内での勉強会より伝達していく。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回の避難訓練の実施。 自治会への協力体制も行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	施錠はしていない。 入居者の状況変化に合わせ、その都度、ご家族との話し合い、理解、協力の下、リスク軽減に繋げている。職員は常に明るく接していくよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は普段の状況を把握している。常に表情や言動等変化が見られた時には、バイタルチェックし、記録している。又、受診へと繋げている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	把握には不十分さある。副作用に関して、考慮している。服薬は手渡し、日付、名前等を読み、きちんと服用できているか確認している。		目につく箇所へ、一人ひとりの薬(副作用も含めて)を確認できるよう掲示しておく
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者一人ひとりの体調を把握しながら、体操、散歩、腹部のマッサージを行っている。そして、便秘がちな入居者や排便の状況を見ながら、食事バランスを考え、予防している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きの声掛け、歯磨きを毎食後に行っている。就寝前は義歯洗浄を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。定期的に管理栄養士からアドバイスをもらっている。野菜ジュースなども取り入れたりしながら、水分や食事には常に気を配っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがあり、職員は目を通していているが、理解しているかどうか不安がある。		研修会の参加や当グループホーム内で勉強会を行いたい。感染症予防について、ユニットで話し合うことで意識面を高め、実効していきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品、調理用具、台所の管理は行っているが、不十分である。		食中毒にならないよう、又、意識を高める為、職員で話し合い、行動する。買って来た物はすぐに食べる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ベンチやプランターに花を植え入りやすく、又、季節感など演出している。		もう一步、踏み込んだ関わりをもてるようにしていけたらいいと思う。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、フロアーの飾りに配慮している。CDで音楽を聴いて楽しめる工夫をしたり、生活を感じられる音が常にある環境になっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファやベンチを置いて、いつでも横になったり、そこで談話や寛げるスペースを作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に使用されていた物、ぬいぐるみ、茶碗、写真など、落ちついてご本人が過ごしやすい空間になっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	目に付く所に温度計、湿度計を置いて、常に気をつけて調節をしている。入居者の着ている物などには目配りしながら調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能を配慮した動線作りや家具の配置をし、入居者の状態に合わせた、自立した生活を支援、工夫している。		その都度、一人ひとりに合った安全面の配慮をしていく。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱しやすい人には、その原因を皆で話し合っ、出来るだけご本人の不安を取り除くように工夫している。		一人ひとりの混乱が起きないように見きわめて、出来るだけ不安のない生活をしていただけるように工夫していく。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベンチや椅子を置いて、日光浴を楽しんだり、畑作業の準備をしている。スロープも作って、車椅子の方も行けるように配慮している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・ 本人の意向を第一に考え、出来るだけ満足していただけるよう、取り組んでいる。 ・ 月に1回行うイベント（外食やお出かけ）で、生活の刺激と気分転換を図る。